

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成24年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト

「 ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり 」

研究代表者 小川 晃子
(岩手県立大学社会福祉学部 教授)

1. 研究開発プロジェクト名

ICT を活用した生活支援型コミュニティづくり

2. 研究開発実施の要約

①研究開発目標

独居高齢者を主とする高齢者の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指し、これまで岩手県立大学で岩手県等と連携し取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤とし、岩手県立大学5学部を中心とする研究者16名による5つの研究グループによるプロジェクト体制を築き、高齢化の進展する岩手県内地域の現状と生活支援ニーズを調査し、科学的根拠に基づき分析・把握し、仮説検証を行う。

この学際的研究メンバーが、行政（岩手県・盛岡市・滝沢村）・社会福祉協議会（岩手県社協・盛岡市社協・宮古市社協川井支所・滝沢村社協）との連携のもと、4つのフィールド（都心型・ニュータウン型・郊外スプロール型・限界集落型）における民生委員協議会や社会福祉・医療の専門的な機関・組織、町内会などの住民組織やボランティア組織、宅配便や配食サービスなどのサービス提供事業者、及び老人クラブ・シニアネットや職場OB会などの高齢者相互支援型の団体、さらに大学生によるボランティア組織など、地域の多様な関与者の協働による職際的な体制で実証実験を行う。

実証実験は、家庭用の電話機から「4. 話したい」及び「5. 生活支援」等のボタンを24時間365日押すことができる体制を整備し、緊急通報システムやセンサーによる異変把握と使いわけを行い、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証し、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

②実施項目・内容

1. 学際的体制の構築と運営
2. 仮説の構築
3. 職際的フィールド体制の構築と運営
4. 実証実験
5. 効果測定
6. 報告書作成
7. プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

③主な結果

平成23年度までに構築したフィールドの人的ネットワークと情報ネットワークによるみまもり体制の維持に重ねて、生活支援型のサービス開発とコミュニティづくりを進めた。

宮古市川井地区では、入浴施設における買い物支援策を検討した。盛岡市松園地区では、見守りセンターである社会福祉法人における受託事業として緊急通報や配食などの生活支援と、盛岡市桜城地区では民生児童委員による生活支援とつながった。

集中的な取り組みを行った滝沢村では、2つの大きな社会実験を平成25年度から本格開始できるよう、企画と準備を行った。その1つは、滝沢村全体のモニターを対象とし、滝沢村社会福祉協議会と地元スーパーであるマイヤ、及びヤマト運輸の連携による「まごころ宅急便」である。もう1つは、コンビニエンスストアや福祉事業者を含む川前地区高齢者支援連絡会議の生活支援の取り組みである。いずれも、モニターは、おげんき発信の「5. 頼みたい」ボタンから依頼できる。平成25年度にかけてこの実証実験を続け、効果を検証する予定である。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

独居高齢者を主とする高齢者の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指し、これまで岩手県立大学で岩手県等と連携し取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤とし、岩手県立大学5学部を中心とする研究者16名（社会福祉学・社会老年学・社会学・心理学・経済学・医学・看護学・ソフトウェア情報学・都市工学・福祉工学）による5つの研究グループによるプロジェクト体制を築き、高齢化の進展する岩手県内地域の現状と生活支援ニーズを調査し、科学的根拠に基づき分析・把握し、仮説検証を行う。

この学際的研究メンバーが、行政（岩手県・盛岡市・滝沢村）・社会福祉協議会（岩手県社協・盛岡市社協・宮古市社協川井支所・滝沢村社協）との連携のもと、4つのフィールド（都心型・ニュータウン型・郊外スプロール型・限界集落型）における民生委員協議会や社会福祉・医療の専門的な機関・組織、町内会などの住民組織やボランティア組織、宅配便や配食サービスなどのサービス提供事業者、及び老人クラブ・シニアネットや職場OB会など的高齢者相互支援型の団体、さらに大学生によるボランティア組織など、地域の多様な関与者の協働による職際的な体制で実証実験を行う。

実証実験は、家庭用の電話機から「4. 話したい」及び「5. 生活支援」等のボタンを24時間365日押すことができる体制を整備し、緊急通報システムやセンサーによる異変把握と使いわけを行い、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証し、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

(2) 実施方法・実施内容

① 学際的体制の構築と運営

共同研究者全員による全体会議とグループ会議を適宜開催し、研究内容を検討した。

② 仮説の構築

実証実験を通して検証する仮説を検討した。

③ 職際的フィールド体制の構築と運営

細田グループを中心として、フィールドの行政・社会福祉協議会職員や、ヤマト運輸等の関与者と検討しながら、フィールドでの実証実験を進めてきた。

④ 実証実験

フィールドごとに3年間、高齢者に「おげんき発信」のモニターを依頼し、民生児童委員

等に見守り者を依頼するとともに、見守りのサブセンターを構築し、コミュニティの変化を検証してきた。

滝沢村においては、買い物や雪かき、配食などの生活支援の実証実験を平成25年度から開始する予定である。また、宮古市川井においては、入浴施設における買い物支援策を平成24年度に実証実験を行った。

⑤ 効果測定

モニターは、半年に1回、計4回の調査を実施し、心理や生活面での変化を測定している。また、滝沢においては、村民意識調査を平成24年度に実施した。

また、川井と滝沢村川前地区においては、フォーカスグループインタビューを平成24年に実施し、同様の手法で平成25年度にも実施する予定である。

⑥ 報告書作成

上記の内容を整理・分析し、報告書を作成する。

⑦ プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

プロジェクトの成果がフィールドで持続的に取り組まれるために必要な方策について、関与者とともに検討している。

また、プロジェクトで開発した成果の普及を目指して、他プロジェクトへの取り組みを進めている。

(3) 研究開発結果・成果

① フィールドごとのみまもりと生活支援の体制

平成24年度は、平成23年度までに構築したフィールドの人的ネットワークと情報ネットワークによるみまもり体制の維持(表1の通り)に重ねて、生活支援型のサービス開発とコミュニティづくりを進めた。

表1. フィールドごとのみまもりセンター名とモニター数・生活支援方策

(平成25年2月末現在)

地域	地域性	みまもりセンター（モニター数）	生活支援方策
滝沢	郊外スプロール型 人口5万人の村。岩手県立大が立地し、行政の協力度が高い	社会福祉協議会（50）※	民生委員との連携、有償・無償のサービス連携を検討し、買い物支援策が結実。
		社協第2みまもりセンター（20）※	緊急通報との一体化を図り、民生委員による生活支援と連携。買い物支援策の対象。
		川前みまもりセンター（21）※	川前地区高齢者支援連絡会の検討により、学生ボランティアセンターの見守りや雪かき支援等、学生への買い物支援策との連携、コンビニエンスストアの買い物支援、介護事業者の配食・介護タクシーとの連携策を実証実験予定。
		小計（91）※	
松園	ニュータウン型 昭和40年代から開発された人口約2万人の盛岡市郊外の団地	社会福祉法人育心会（16）	民生委員との連携。社会福祉法人が受託している配食・ホームヘルパーによる生活支援と連携。
桜城	都心型 盛岡駅前集合住宅を中心に孤立死対策に取り組んでいる地域	盛岡駅西口地域包括支援センター（17）※【1】	民生委員との連携。盛岡市と市営住宅でのセンサー実験開始。
宮古市川井	過疎・高齢化進展型 旧川井村。東京23区の面積に約3千人居住。高齢化率40%超。	社会福祉協議会支所（38）【2】	民生委員によるサブセンターができ、家業（米屋）による買い物代行支援。有償生活支援サービスを提供しているNPO法人かわい元気社との連携で、買い物支援を検討・開発中。
合計		（おげんき発信162） ※夜間休日青森転送108【センサー3】	

注1) 【 】内はセンサー実験実施数

注2) ※は夜間休日青森コールセンター転送分

② 滝沢フィールドにおける生活支援型コミュニティづくり

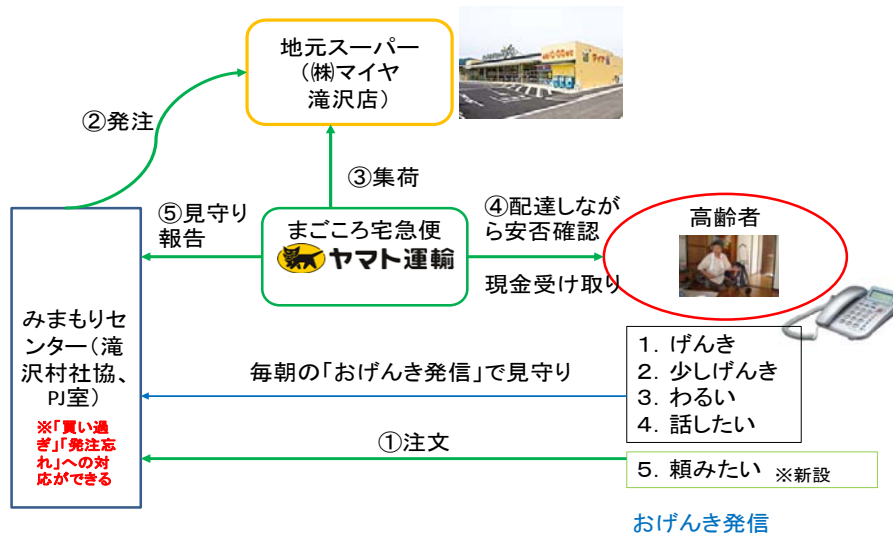
ア) 買い物支援策（滝沢村全域）

滝沢では、2つの大きな社会実験を平成24年度末から開始している。1つは、滝沢村全体のおげんき発信モニターを対象とした、買い物支援策である。関与者との協議を重ね、平

成 25 年 4 月 1 日開始をめざし開発を行った。平成 25 年 2 月から 3 月にかけて買い物カタログを作成し、すべてのモニターに配布し、買い物支援の仕組みを説明した。その仕組みは、図 1 に示す通りである。

まず、モニターは午前中におげんき発信に新設した「5. 頼みたい」を押すと、みまもりセンターである滝沢村社会福祉協議会（川前地区は岩手県立大学プロジェクト室）に電話がつながり、買い物を発注する。これは、認知レベルの低下したモニター等による買い過ぎや発注忘れへの福祉的な対応を可能とするためである。みまもりセンターで受けた注文は、地元スーパーマーケットである(株)マイヤで品物をそろえ、翌日午前中にヤマト運輸(株)がモニター宅に配達する。玄関で現金（買い物代金+配達代金1箱 500 円）を受け渡す際に、モニターに簡単な質問により異変がないかを確認し、その結果をファクシミリでみまもりセンターに送付する。これにより、能動的な安否発信であるおげんき発信に、他者による安否確認情報が加わり、みまもりの精度が高まる効果がある。ヤマト運輸(株)では、岩手県の西和賀町や大槌町で社会福祉協議会やスーパーと連携し「まごころ宅急便」を展開してきたが、能動的な安否発信であるおげんき発信との一体化は、初の試みである。プロジェクトではこの仕組みを平成 25 年 4 月から 8 月まで実証実験し、その結果をもとに滝沢村社会福祉協議会での事業化を検討することになっている。

図 1. 滝沢村における買い物支援策



イ) 川前地区高齢者支援連絡会

川前地区高齢者支援連絡会は、JST 領域内のアクションリサーチ委員会と連携し平成 24 年 8 月に領域アドバイザーである冷水先生によるフォーカスグループインタビューを契機

として立ち上げたものである。その後の連絡会による検討により、川前地区のおげんき発信モニター21名を対象として、平成24年3月から実証実験を開始した。モニターが利用できる生活支援策は表2に示す通りである。

川前地区での高齢者を対象とする支援は、岩手県立大学の学生が居住するアパート経営者等による学生支援のための組織である「滝沢駅前安心・安全の会」と、岩手県立大学学生ボランティアセンターの2つの地域と大学の連携が基盤となっている。これを背景として、プロジェクト開始後、川前地区の民生児童委員との連携でおげんき発信モニターを20名以上確保し、学生ボランティアセンターとの連携で雪かきボランティアのマッチングシステムを稼働させ、高齢者支援連絡会結成の働きかけを行った。川前地区高齢者支援連絡会は、表2に示す支援者で構成されており、事務局はプロジェクト室である。

平成25年3月に「川前のおげんきさんのくらしをお手伝いします!」と題した生活支援メニューを紹介するパンフレットを作成し、説明をしてみまもり実証実験を開始した。生活支援サービスの依頼は、提供者に直接電話をかけるか、おげんき発信の「5.頼みたい」ボタンでみまもりセンター（プロジェクト室）に伝えるかいずれかである。

表2. 川前地区高齢者支援連絡会による生活支援メニュー

支援内容		支援者	有償・無償	その他
雪かき		岩手県立大学等のボランティア	無償	モニターは、電話及びおげんき発信「5.頼みたい」ボタンで依頼
買い物	送迎（随時）・商品配達	ローソン滝沢駅前店	無償	
	商品配達	滝沢村社会福祉協議会・ヤマト運輸(株)・(株)マイヤ（上記の通り）	有償	
	送迎（定期）	滝沢駅前安全安心の会の学生対象の買い物ツアーに同乗	無償	
弁当・惣菜を届ける		有限会社ケアサービスまごのて	有償	
介護タクシー			有償・介護保険等可	
お助け便		滝沢村社会福祉協議会	有償	
みまもり	滝沢駅前防犯拠点	川前自治会他	無償	上記生活支援策の基盤となる活動
	パトロール（チャリパト隊）	岩手県立大学学生ボランティアセンター	無償	
	見守り	民生児童委員	無償	
	おげんき発信	滝沢村社会福祉協議会・PJ室	無償	

こうした関係性は、図2の通りである。



図2. 川前地区高齢者支援連絡会による生活支援、及び他支援との関連

ウ)健康づくりサロン活動 (滝沢村湯舟沢地区)

滝沢村内のニュータウンである湯舟沢地区では、平成23年12月に民生委員の呼びかけで「おげんき発信」を開始するモニター6名(現在は8名)によるサロン活動を始めた。カトレア会と称するこの会は、活動量計による運動量の測定を2週間に1回行うとともに交流し、大学の食堂に集う際には看護学部教員による健康指導も行っている。会員は相互に見守りや買い物支援を行うようになっており、コミュニティが形成されている。

エ)その他の取り組み

学生による複数大学や中・高校生との雪かき連携を支援し、マッチングシステムの実験も行った。

また、滝沢村商工会の「手助けネットワーク」、鶴飼商工振興会による「わくわく生活支援隊」などの有償の生活支援サービスとの連携にも働きかけを行っている。

③ 川井フィールドにおける生活支援型コミュニティづくり

過疎化・高齢化が進展する川井地区では、生鮮三品を取扱う移動販売車が稼働しているために新たな要望は低く、買い物支援策としては化粧品や衣料など盛岡市や宮古市に行かなければ

れば買えない品物を購入する機会への要望の方が高いことが調査から把握された。

また、片づけや家屋の修理・蜂の巣とりなどの生活支援サービスの必要性は高くなってきているものの、サービス認知度が低いことと、低所得による利用控えにより、利用率が低いことも明らかになった。そこで、有償生活支援サービスを提供している NPO 法人かわい元気社と連携し、平成 24 年 8 月に高齢者支援フォーラムを開催し、検討を行った。その結果、図 3 に示すような取り組みを構想としてまとめた。NPO 法人かわい元気社が指定管理者となっている入浴・交流・宿泊の機能をもつ静峰苑を支援拠点とし、高齢者はここに電話ないしはおげんき発信の「5. 頼みたい」ボタンで洋服や化粧品などふだん購入できない品を発注し、入浴にでかける際に NPO 法人が稼働する送迎バスにこの品物を積んで帰る仕組みである。これを稼働することにより、NPO 法人の「暮らし応援メニュー」の認知度を高め、利用促進を図ることも狙いである。

こうしたサービス開発のニーズを確認するために、平成 24 年 12 月の静峰苑まつりと、3 月のおげんき発信モニターを対象とした「L 友サロン」で、岩手県立大学の化粧ボランティアによる化粧・ハンドマッサージを提供しながら、高齢者のニーズ調査を実施した。また、L 友サロンの際には、宮古の業者に洋服販売を依頼したところ、参加者の 8 割が何らかの品を購入し、ニーズがあることが確認された。取り組みの状況は図 4 に示す通りである。

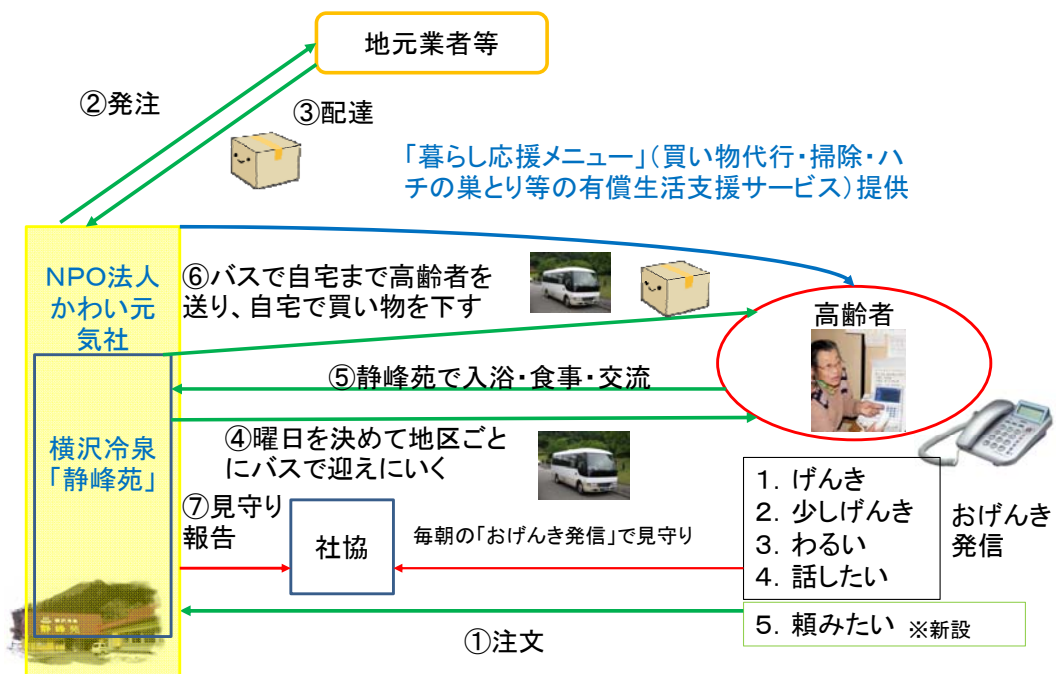


図 3. 宮古市川井地区における生活支援サービス開発の構想



図4. NPO 法人かわい元気社の広報誌による取り組みの紹介

④評価調査

上記のようなアクションに対する評価のための調査を、時系列的に実施している。モニター調査の第3回目を平成24年前半に実施し、第4回目を平成24年度後半から平成25年度にかけて実施している。

滝沢村における量的な住民意識調査は、平成24年9月に郵送調査を実施し、分析中である。

また、生活支援型コミュニティづくりに介入したことによるアクションリサーチの効果測定としては、川前でアクションリサーチ委員会との連携でフォーカスグループインタビューを平成24年8月に行い、これが契機となって川前地区高齢者支援連絡会が発足した。川井では、平成24年9月に高齢者支援フォーラムと名付けたフォーカスグループインタビューを行い、この検討結果をもとに買い物支援策の実証実験を行った。

(4) 会議等の活動

・実施体制内での主なミーティング等の開催状況

年月日	名称	場所	概要
平成24年4月25日	岩手県社会福祉協議会打ち合わせ	岩手県社会福祉協議会会議室	プロジェクトの23年度報告と24年度計画の情報共有
平成24年4月27日	青森県社会福祉協議会打ち合わせ	青森県社会福祉協議会会議室	夜間・休日みまもりセンター機能についての23年度報告と24年度依頼事項説明・検討
平成24年5月11日	岩手県保健福祉部地域福祉課打ち合わせ	岩手県庁	23年度進捗状況報告と24年度計画の情報共有
平成24年5月17日	第4グループ会議	岩手県立大学ソフトウェア情報学部IS研	1. 生活支援マッチングシステムプロトタイプ開発について 2. おげんき見守りシステム関連の状況 3. センサーシステムについて
平成24年5月22日	第14回全体会議	岩手県立大学地域連携棟プレゼンルーム	1. プロジェクト進捗状況報告 2. 研究グループ報告 3. 滝沢村民生委員調査結果について 4. 滝沢村民意識実施について 5. サロン活動事例-カトレア会 6. 意見交換
平成25年5月24日	カトレア会	利用者宅	交流活動
平成24年5月29日	ボランティアセンター打ち合わせ	学生ボランティアセンター	進捗状況説明と連携体制検討
平成24年5月30日	滝沢村民生児童委員協議会5月	滝沢村老人福祉センター	地区会長会議での進捗状況、調査報告

平成24年5月30日	OSTECシンポ講演	一般財団法人 大阪技術セン ター	成果発表
平成24年5月31日	アクションリサー チ委員会第3回会 議	JST	渡邊出席
平成24年6月5日	カトレア会	岩手県立大学 食堂会議室	交流活動
平成24年6月5日	松園民生委員協議 会	松園地区活動 センター	進捗状況、調査報告
平成24年6月6日	桜城民生委員協議 会	桜城地区活動 センター	進捗報告、調査報告
平成24年6月13日	滝沢村民生児童委 員協議会	ふるさと交流 館	定例会議での進捗状況、調査報告
平成24年6月18日	カトレア会	岩手県立大学 食堂会議室	交流活動
平成24年6月19日	青森県社会福祉協 議会打ち合わせ	青森県社会福 祉協議会会議 室	進捗状況報告
平成24年6月20日	滝沢村地域ケア会 議	滝沢村公民館	進捗状況、調査報告
平成24年6月21日	第4グループ会議	岩手県立大学 ソフトウェア 情報学部IS研	グループ課題の検討
平成24年6月22日	第3グループ会議	岩手県立大学 福祉経営学科 長室	グループ課題の検討
平成24年6月22日	辻PJサイトビジッ ト	東京大学柏キ ャンパス	直井、宮城出席
平成24年6月26日	第15回全体会議	岩手県立大学 地域連携棟プ レゼンルーム	進捗状況報告、課題検討
平成24年6月26日	第2グループ会議	岩手県立大学 地域連携棟プ レゼンルーム	グループ課題の検討
平成24年6月26日	岩手県庁保健福祉 部訪問	岩手県庁	普及方策について打ち合わせ
平成24年7月2日	カトレア会	利用者自宅	交流活動
平成24年7月3日	平成24年度第1回 ICT事業担当者連 絡会議	ふれあいラン ド岩手	進捗状況を市町村社協職員に説明 し、普及等について依頼
平成24年7月4日	岩手県保健福祉部 地域福祉総括課長	岩手県庁	進捗状況報告と、今後の取り組み検 討
平成24年7月5日	滝沢村IPUイノー ベーションフォー ラム2012	岩手県立大学 講堂	普及活動
平成24年7月10日	アクションリサー チ委員会	JST	アクションリサーチについて進捗 状況説明と今後の取り組み検討(直 井、狩野、小川出席)

平成24年7月13日	いわて未来づくり 機構ラウンドテー ブル・総会	ホテルメトロ ポリタン岩手 ニューウィン グ	第5作業部会報告のなかで取り組み を紹介（普及活動）
平成24年7月17日	カトリア会 集合調査	利用者宅 民生委員宅	交流・調査
平成24年7月20日	JST監事監査	岩手県立大学	監事監査を受ける
平成24年7月21日	2012社会イノベー ター公志園決勝大 会	仙台	ヤマト運輸(株)松本まゆみ氏が代 表受賞
平成24年7月24日	滝沢村地域福祉活 動計画住民懇談会 (元村南、室小路、 国分、元村中央、 法誓寺、元村東、 元村西、元村北、 あすみ野)	各地区説明会 場	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年7月24日	ヤマト運輸松本氏 と打ち合わせ	岩手県立大学	滝沢等でのまごころ宅急便の展開 について検討
平成24年7月27日	睦大学(滝沢村高 齢者大学)代表者 会議において千田 睦美先生講話	滝沢村公民館	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年7月30日	カトリア会	岩手県立大学 食堂会議室	千田先生の健康講話と交流
平成24年7月31日	滝沢村地域福祉活 動計画住民懇談会 (小岩井、大釜、篠 木、大沢)	各地区説明会 場	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年8月1日	滝沢村地域福祉活 動計画住民懇談会 (鶉飼南、鶉飼西、 鶉飼温泉、滝沢NT、 姥屋敷)	各地区説明会 場	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年8月2日	滝沢村地域福祉活 動計画住民懇談会 (巢子、南巢子、長 根、川前)	各地区説明会 場	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年8月7日	滝沢村地域福祉活 動計画住民懇談会 (柳沢、いずみ巢子 NT、南一本木、北 一本木)	各地区説明会 場	プロジェクト説明、地域住民への広 報
平成24年8月9日	カトリア会	民生委員宅	今後の運営方針協議
平成24年8月10日	第16回全体会議	岩手県立大学 地域連携棟プ レゼンルーム	進捗状況報告・課題検討

平成24年8月10日	第2回グループ会議	岩手県立大学 地域連携棟プレゼンルーム	グループ課題の検討
平成24年8月10日	ヤマト運輸松本氏と打ち合わせ	岩手県立大学	滝沢等でのまごころ宅急便の展開について検討
平成24年8月11日	川井地区打ち合わせ	川井横沢冷泉	NPO法人かわい元気社、社会福祉協議会と今後の取り組み検討
平成24年8月20日～21日	アクションリサーチ委員会 調査	岩手県立大学	川前・個別面談
平成24年8月21日	滝沢村地域福祉活動計画住民懇談会(全地区)	滝沢村社協会議室	プロジェクト説明、地域住民への広報
平成24年8月30日	JST視察	川前地区	冷水先生・前場氏へ説明
平成24年8月30日	アクションリサーチ委員会調査	岩手県立大学	川前地区第1回フォーカスグループインタビュー
平成24年9月10日	カトレア会	利用者宅	交流活動
平成24年9月14日	川井高齢者支援フォーラム	川井横沢冷泉	川井地区の社協、NPO法人、老人クラブ活動者等と高齢者支援についての検討
平成24年9月21日	ヤマト運輸松本氏と打ち合わせ	岩手県立大学	滝沢等でのまごころ宅急便の展開について検討
平成24年9月24日	カトレア会	利用者宅	交流活動
平成24年9月25日	アクションリサーチ委員会	JST	川前におけるフォーカスグループインタビュー実施報告
平成24年9月26日	買い物支援打ち合わせ	(株)マイヤ本社	ヤマト運輸との連携策説明・依頼
平成24年10月4日	東京書籍	岩手県立大学	小5社会科教科書においてPJ内容を含む取材を受ける
平成24年10月6日	カトレア会	モニター自宅	交流・計測会
平成24年10月12日	川前地区お助け便の実施と検討	利用者宅	川前地区の町内会・民生児童委員・社協・ケアマネ等が集まり、庭木の伐採と今後の活動打ち合わせ
平成24年10月12日	買い物支援打ち合わせ	岩手県立大学	連携策打ち合わせ
平成24年10月15日	カトレア会	岩手県立大学(学生生協)	交流活動・健康支援活動
平成24年10月17日	買い物支援打ち合わせ	大船渡市社会福祉協議会	(株)マイヤ、ヤマト運輸(株)、大船渡市社協と打ち合わせをし、大船渡での取り組みを滝沢に援用する方策を検討
平成24年10月22日	買い物支援打ち合わせ	西和賀社会福祉協議会	まごころ宅急便について視察調査し、滝沢での資料とする
平成24年10月24日	滝沢村役場打ち合わせ	滝沢村役場	村民意識調査等打ち合わせ
平成24年10月29日	カトレア会	岩手県立大学	交流活動・計測

平成24年10月29日	岩手県社会福祉協議会打ち合わせ	岩手県社会福祉協議会	進捗状況報告と今後の取り組み検討
平成24年11月2日	カトレア会(個別訪問)	利用者宅	交流活動
平成24年11月11日	日本福祉介護情報学会第13回研究大会	アイーナ	研究報告
平成24年11月12日	カトレア会	利用者宅	交流活動
平成24年11月13日	第2グループ会議	岩手県立大学	第4次モニター調査内容検討
平成24年11月20日	第17回全体会議	岩手県立大学	進捗状況報告・課題検討
平成24年11月22日	岩手県立大学公開講座釜石地区講座	特別養護老人ホームはまゆりホール	PJ内容広報
平成24年11月25日	カトレア会	利用者宅	交流・計測活動
平成24年12月6日	東京書籍	岩手県立大学	小5社会科教科書、PJ内容を含む取材
平成24年12月8日～9日	JST領域合宿	大橋会館	進捗状況報告、領域における検討、交流
平成24年12月10日	カトレア会	利用者宅	交流・計測活動
平成24年12月16日	川井清峰苑まつり	川井横沢冷泉	PJ説明(広報)・化粧ボランティアを行いつつニーズ調査実施
平成24年12月17日	第28回Wellbeing研究会	仙台市産業振興事業団	講演・PJ内容広報
平成24年12月21日	アクションリサーチ委員会	JST	小川委員会に出席
平成24年12月21日	カトレア会	利用者宅	交流・計測活動
平成24年12月25日	滝沢村民生児童委員協議会12月定例会議	ふるさと交流館	民生児童委員に進捗状況説明し今後の協力依頼
平成24年12月27日	第5グループ会議	アイーナ	岩手県・岩手県社会福祉協議会等と持続可能性について検討
平成24年12月27日	第5グループ会議	盛岡市社会福祉協議会	上記会議内容の連絡と検討
平成25年1月7日	カトレア会	利用者宅	交流・計測活動
平成25年1月7日	高齢者支援策についての検討会	(有)ケアサービスまごのて	川前地区高齢者支援連絡会の説明をし参加同意を得る
平成25年1月8日	第1回川前地区高齢者支援連絡会	岩手県立大学地域連携棟プレゼンルーム	(仮称)をとり、実質的な最初の連絡会を立ち上げる
平成25年1月10日	カトレア会関連		地区担当民生委員との打ち合わせ
平成25年1月20日	カトレア会	利用者宅	交流・計測活動
平成25年1月21日	買い物支援策検討会議	滝沢村社会福祉協議会	ヤマト運輸、滝沢社協、PJ室で具体策の検討

平成25年1月23日	いわて未来づくり機構 第5作業部会	岩手県庁	第5作業部会の報告のなかでPJ進捗状況説明
平成25年1月26日	滝沢村プレゼンコンテスト	滝沢村公民館	PJと連携した取り組みとして、4年生川尻君がスノーバスターズの取り組みをプレゼンし優秀賞受賞
平成25年1月28日	㈱アイネット打合せ	岩手県立大学	今後の取り組み策について情報交換と検討
平成25年1月29日	第18回全体会議	岩手県立大学	進捗状況報告・課題検討
平成25年1月30日	研修会講師	盛岡市社会福祉協議会	シルバーメイトを対象とする研修会でPJ説明
平成25年2月4日	自殺・精神疾患に関わる事例検討会	アイーナ	「おげんき発信」自殺3事例の検討を行う
平成25年2月7日	岩手医科大学連携策打ち合わせ	岩手県民会館	岩手医科大学長小川彰先生と、今後の連携策について打ち合わせ
平成25年2月8日	滝沢村打ち合わせ	滝沢村役場	PJ進捗状況報告、買い物支援策等への意見聴取
平成25年2月9日	いわて未来づくり機構 ラウンドテーブル	岩手県立大学 宮古短期大学部	PJ内容を含む取り組みの報告（成果普及のための広報）
平成25年2月13日	見守り支援を考えるフォーラム	淑徳大学	講演のなかでPJを広報
平成25年2月16日	日本遠隔医療学会 スプリングカンファレンス2013	全国家電会館 (秋葉原)	研究報告
平成25年2月19日	第5グループ会議	アイーナ	岩手県・岩手県社協と持続可能な取り組みを検討
平成25年2月20日	まつぼっくり語ろう会(サロン)	ボランティア活動拠点スマイル・すまいる	滝沢村民生児童委員協議会長篠崎氏が運営するサロン活動においてPJの取り組みを紹介
平成25年2月22日	第2回 川前地区高齢者支援連絡会	岩手県立大学	おげんき発信を活用した連携策具体化の検討・実証実験決定
平成25年2月25日	平成24年度お互い様のまちづくり勉強会	ふるさと交流館	川前地区高齢者支援連絡会代表酒井氏が活動内容を報告
平成25年2月27日	JST領域シンポジウム	東京大学	小川・直井・伊藤が参加し、パネラー・交流活動等
平成25年3月6日	滝沢村民生児童委員協議会（中部地区）	ふるさと交流館	進捗状況報告と今後の取り組み協力依頼
平成25年3月8日	川井L友サロン	川井横沢冷泉	PJの進捗状況をモニターに説明し、交流活動とニーズ調査実施
平成25年3月13日	滝沢村民生児童委員協議会（南部地区）	ふるさと交流館	進捗状況報告と今後の取り組み協力依頼
平成25年3月14日	滝沢村民生児童委員協議会（北部地区）	勤労青少年ホーム	進捗状況報告と今後の取り組み協力依頼

平成25年3月15日	自殺防止対策研修会	川井横沢冷泉	川井地区におけるケアマネ・民生委員等を対象として黒澤による自殺予防研修実施
平成25年3月21日	第5グループ会議	アイーナ	進捗状況報告・持続可能性について検討
平成25年3月22日	スマホによる見守りへの取り組み説明会	滝沢村社会福祉協議会	普及策の1つであるNTTドコモ(株)との共同実験の説明
平成25年3月25日	第3回 川前地区高齢者支援連絡会	岩手県立大学	実証実験開始状況について確認、検討
平成25年3月28日	買い物支援策検討会議	滝沢村社会福祉協議会	ヤマト運輸、滝沢社協、PJ室で具体策の検討
平成25年3月28日	岩手県立大学公開講座盛岡地区講座	アイーナ	講演のなかでPJ広報

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

各フィールドでプロジェクト終了後もその成果が活用されるよう、連携策を進めている。プロジェクトの基盤となる「いわて“おげんき”みまもりシステム」の更新も含めて、岩手県・岩手県社会福祉協議会によるフィールド支援も必要であるため、こうした関与者と持続可能な取り組み策について、細田グループでの検討を進めている。

また、本プロジェクトで得られた孤立防止とコミュニティづくりの社会技術を、東日本大震災の被災地における仮設住宅等での孤立防止とコミュニティづくりの再構築に活用されるよう、平成23年度から岩手県立大学の地域政策研究センターの復興研究の採択を受け、「被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」プロジェクトに取り組んできた。釜石市鶴住居地区、大槌町和野地区、宮古市田老地区、野田村、及び盛岡市（避難してきた被災者支援）において、それぞれのコミュニティの特性に応じた取り組みを展開している。このうち釜石市鶴住居地区においては、仮設住宅のサポートセンターをみまもりセンターとして、そこに常駐している生活支援相談員（社会福祉士）をみまもり者とし、おげんき発信（着信払い）に加えて、電気の使用行動をセンシングするセンサーと、血圧伝送システムを使い分ける形での取り組みを実施している。センサーは電力中央研究所と、血圧伝送システムは岩手医科大学・盛岡市立病院と連携している。医療・福祉の見守りが連携することにより、盛岡などの遠隔地で医師が書き込んだコメントを、サポートセンター職員が印刷し訪問することで受診誘導されるなどの新たな支援効果がでている。また、釜石市においては、(株)NTTドコモとの共同研究により、仮設団地を巡回している仮設住宅団地支援連絡員が安否確認をした情報を共有できるようタブレットを活用したシステムを開発した。鶴住居においては、さらにサポートセンター職員がおげんき発信等で把握した安否を入力し、情報共有することで、孤立死防止の精度を高めた。こうした取り組みの成果を、いわて未来づくり機構の第5作業部会長として、知事ラウンドテーブルで報告し普及策を政策提言している。また、被災地における社会技術の普及に関しては、学会報告や講演を行っている。

また、「いわて“おげんき”みまもりシステム」を岩手県と同様に導入している青森県においては産業技術センターが平成24年度から「ICTを用いた集合住宅高齢者生活支援システム」検討委員会の委員として、低速PLCを活用した県営住宅等における同様の取り組みへの提言につなげている。さらに、平成24年度から、(株)NTTドコモと「スマートフォンを

活用した高齢者見守り」の共同研究を開始した。このように、ICTの進展に伴い、「おげんき発信」のデバイスが多様になるが、そこで把握される高齢者の安否確認や生活支援ニーズを地域福祉ネットワークのなかで共有し、生活支援型コミュニティづくりに役立てることができるような取り組みに展開してきている。

5. 研究開発実施体制

研究代表者及びその率いるグループ (小川晃子)

岩手県立大学 社会福祉学部 福祉経営学科

実施項目：

- ・プロジェクト全体の管理生活支援型コミュニティづくり
- ・生活支援型コミュニティづくりに関する仮説検証 (アクションリサーチの効果検証を含む)
- ・成果公表のための取り組み (シンポジウム・ワークショップ開催)

概要：研究代表者及び5つの研究グループのリーダーでグループを構成し、月1回程度の全体会議を開催し、プロジェクト全体の進捗状況の管理と調整を行った。

高齢者自立支援策研究グループ (直井道子)

桜美林大学大学院老年学研究科

実施項目：

- ・指標の検討
- ・高齢者の心理・自立度の変化測定
- ・高齢者の自立支援方策の仮説検証

概要：

社会老年学・精神医学・老年看護学・心理学の専門性をもつ5名でグループを構成し、全体会議にあわせてグループ研究会議を開催し、各専門分野における研究状況の報告と調整を行うとともに、学際的な討議をすることで、高齢者の自立支援策に関する仮説の構築とその検証を行った。

コミュニティ支援策研究グループ (狩野徹)

岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科

実施項目：

- ・コミュニティ支援システムのありかたの検討
- ・コミュニティ支援の評価方法の検討
- ・コミュニティ支援環境の提案

概要：

家族や行政の支援を踏まえた上で、これらの連携、隙間など考慮した地域コミュニティ支援のあり方を検討し、自立支援だけでなく生活支援の視点から評価する方法を提案する。

ICTを活用した高齢者の生活支援策研究グループ（佐々木淳）

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

実施項目：

- ・ 各コミュニティモデルにおける高齢者の生活支援に適応するICT（情報通信技術）活用方策の提案
- ・ 上記提案に基づく情報システムへの要求仕様の明確化とプロトタイプシステムの設計・構築及び実証実験・評価

概要：

- ・ 独居高齢者の孤立死防止を図るため、電話を活用した「おげんき発信」システムの拡張を行う。本システムには、緊急通報、生活行動センサーや人感センサーによる安否確認との情報連携機能も実装し、共通のデータベースを用いて多様なアプリケーションが提供できるシステムアーキテクチャについて研究開発を行った。
- ・ 高齢者の多様な情報リテラシーに応じた各種情報アクセス手段（端末、操作環境）の実現方法に関する研究開発を行った。
- ・ 高齢者の異変（認知度低下等）の早期発見・対策を行うため、日常的な情報発信データに基づく、効果的なデータ分析/表示手段の研究開発を行った。

持続可能なサービス提供の在り方研究グループ（細田重憲）

岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科

実施項目：

- ・ 公的・民間サービスの持続可能性検証・制度設計
- ・ 行政上の課題、地域システム形成、持続性視点による行政関与の在り方（県、市町村それぞれが行うべき役割）
- ・ 地域特性及び持続可能性視点による行政関与型サービス提供組織の機能
- ・ 地域特性及び持続性視点による民間組織、自主的活動団体、住民組織等の参画とその調整、統合の在り方
- ・ 被災地におけるニーズの把握
- ・ 被災地における社会資源の把握
実装の企画・提案

概要：

本研究の課題は重要かつ今日的な行政課題であること及び本県の地域状況を踏まえ、第一義的に行政による基本的な指針、枠組みの策定などが必要ではないかという認識に基づいて、岩手県、関係市町村の果たすべき役割を検討した。

地域における社会資源として基軸的な役割を持つ社会福祉協議会若しくは高齢者福祉に関わる社会福祉法人（ここでは行政関与型サービス提供組織と分類）は、本システムにおいても中核的な役割を果たすことが必要という認識に基づいて、その参画と役割の具体化について検討した。

本システムの普及、浸透のために民間企業や住民活動組織の参画、活動が必要との認識に基づき、参画の諸条件や持続性の確保、地域における他組織との機能分担や調整方策などについて検討した。

また、三陸における創造的復興のために当プロジェクトで開発した社会技術の普及方策について検討した。

6. 研究開発実施者

代表者・グループリーダーに「○」印を記載

研究グループ名：研究代表者及びその率いるグループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	小川 晃子	オガワ アキコ	岩手県立大学社会福祉学部・ 地域連携本部	教授・ 副本部長	統括／生活支援型コミュニティづくり仮説構築・検証・評価
	直井 道子	ナオイ ミチコ	桜美林大学大学院老年学研究科	客員教授	高齢者自立支援方策の 仮説構築・検証・評価
	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大学 社会福祉学部福祉経営学科	学科長・ 教授	コミュニティ支援策仮 説構築・検証・評価
	佐々木 淳	ササキ ジュン	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部	准教授	I C Tを活用した高齢 者の生活支援方策の仮 説構築・検証・評価
	細田 重憲	ホソダ シゲノリ	岩手県立大学社会福祉学部	准教授	持続可能なサービス提 供のあり方に関する仮 説構築・検証・評価
	植田 眞弘	ウエダ マサヒロ	岩手県立大学宮古短期大学部 盛岡市まちづくり研究所	学部長・教授 所長	復興支援研究との連携

研究グループ名：高齢者自立支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	直井 道子	ナオイ ミチコ	桜美林大学大学院老年学研究科	客員教授	高齢者自立支援方策の 仮説構築・検証・評価
	黒澤 美枝	クロサワ ミエ	岩手県精神保健福祉センター	センター 長・精神保健 指定医	自殺予防の観点からみ た高齢者の自立支援策 の検証

	石川 みち子	イシカワ ミチコ	岩手県立大学看護学部	教授	看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証
	山田 幸恵	ヤマダ サチエ	岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科	准教授	心理支援からみた高齢者の自立支援策の検証
	千田 睦美	チダム ツミ	岩手県立大学看護学部	講師	看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証

研究グループ名：コミュニティ支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	狩野 徹	カノウ トオル	岩手県立大学 社会福祉学部福祉経営学科	学科長・ 教授	コミュニティ支援策仮 説構築・検証・評価
	元田 良孝	モトダ ヨシタカ	岩手県立大学総合政策学部	教授	過疎・高齢化進展地域 における交通支援策の 提言
	庄司 知恵子	ショウジ チエコ	岩手県立大学社会福祉学部	講師	社会学の視点からみた コミュニティ支援策の 検証
	宇佐美 誠史	ウサミ マサシ	岩手県立大学総合政策学部	助手	過疎・高齢化進展地域 における交通支援策検 証
	佐藤 俊治	サトウ シュンジ	盛岡市まちづくり研究所	共同研究員	都市における生活支援 策の検証
	上森 貞行	ウワモリサダユキ	盛岡市まちづくり研究所	共同研究員	都市における生活支援 策の検証
	渡邊 智裕	ワタナベトモヒロ	盛岡市まちづくり研究所	共同研究員	都市における生活支援 策の検証
	伊藤 ひとみ	イトウ ヒトミ	盛岡市まちづくり研究所	共同研究員	都市における生活支援 策の検証
	砂子田 聡	イサゴダ サトシ	盛岡市まちづくり研究所	共同研究員	都市における生活支援 策の検証

研究グループ名：ICTを活用した高齢者の生活支援策研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	佐々木 淳	ササキ ジュン	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部	准教授	I C Tを活用した高齢 者の生活支援方策の仮 説構築・検証・評価
	山田 敬三	ヤマダ ケイゾウ	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部	講師	I C Tを活用した高齢 者の生活支援方策の仮 説構築・検証・評価

	高木 正則	タカギ マサノリ	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	講師	ICTを活用した高齢者の生活支援方策の仮説構築・検証・評価
--	-------	----------	------------------	----	-------------------------------

研究グループ名：持続可能なサービス提供の在り方研究グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
○	細田 重憲	ホソダ シゲノリ	岩手県立大学社会福祉学部	准教授	持続可能なサービス提供のあり方に関する仮説構築・検証・評価
	宮城 好郎	ミヤギ ヨシロウ	岩手県立大学社会福祉学部	教授	持続可能なサービス提供のあり方（特に民間サービス）の仮説構築・検証・評価
	植田 眞弘	ウエダ マサヒロ	岩手県立大学宮古短期大学部 盛岡市まちづくり研究所	学部長・教授 所長	復興支援研究との連携

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
23.08.31	川前地区フォーカスグループインタビュー	岩手県立大学	8名	アクションリサーチ委員会との指導による実施
23.09.14	川井地区高齢者支援フォーラム	横沢冷泉静峰苑	10名	社会福祉協議会、NPO法人、老人クラブ、プロジェクトで検討
23.12.16	川井地区高齢者支援フォーラム	横沢冷泉静峰苑	約100名	静峰苑祭りのなかで、化粧ボランティア
24.01.30	盛岡市シルバーメイト研修	盛岡市福祉会館	約100名	地域の見守り者であるシルバーメイトを対象としてプロジェクトの成果を交えて「地域で支える見守り活動」の研修を実施した。
24.03.08	川井地区L友サロン	横沢冷泉静峰苑	20名	モニターの交流会で学生ボランティアが化粧・ハンドマッサージを行うとともに、調査を実施した。また、宮古の衣料販売業者に出店してもらい、買い物支援の必要性を検証した
24.03.15	川井地区見守りさんサロン	横沢冷泉静峰苑	10名	地域の民生児童委員、社会福祉協議会職員（介護支援専門員等）を対象として、黒澤三枝先生による自殺予防に関する座談会・研修を実施した。

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

①書籍、DVD（タイトル、著者、発行者、発行年月等）

該当なし

②ウェブサイト構築（サイト名、URL、立ち上げ年月等）

該当なし

③学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・小川晃子，2012，「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」関西安全・安心を支える科学技術推進会議総括シンポジウム招待講演.
- ・小川晃子，2012，「ICTを活用した生活支援型見守り活動の展開」岩手県社会福祉協議会主催平成24年度第1回ICT事業担当者連絡会議講演.
- ・小川晃子，2012，「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」滝沢村主催滝沢村IPUイノベーションフォーラム2012招待講演.

- ・小川晃子, 2012, 「被災地におけるICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」い
わて未来づくり機構 知事ラウンドテーブル・総会.
- ・小川晃子, 2012, 「医療・福祉の情報連携とコミュニティづくり」岩手県立大学公開
講座釜石地区講座.
- ・小川晃子, 2012, 「被災地支援としての見守りの実践ー岩手県沿岸部での取り組みか
ら」公益財団法人仙台市産業振興事業団主催第28回Wellbeing研究会招待講演.
- ・小川晃子, 2013, 「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」科学技術振興機構
社会技術研究開発センターコミュニティで創る新しい高齢社会デザイン第2回領域シ
ンポジウム成果報告.
- ・小川晃子, 2013, 「コミュニティ『で』新しい高齢社会をつくりには～多様なステー
クホルダとの連携可能性を探る」科学技術振興機構社会技術研究開発センターコミュ
ニティで創る新しい高齢社会デザイン第2回領域シンポジウムパネルディスカッショ
ン.
- ・小川晃子, 2013, 「地域で支える見守り活動ー岩手県沿岸部での取り組みから」公益
財団法人仙台市産業振興事業団主催第28回Wellbeing研究会招待講演.
- ・小川晃子, 2013, 「被災地におけるみまもりの医療・福祉連携」『震災復興支援 ICT
を活用した医療・福祉連携』岩手県立大学公開講座盛岡地区講座.

7-3. 論文発表 (国内誌 1 件、国際誌 0 件)

(国内誌)

- ・小川晃子, 2012, 「ICTを活用した高齢者安否確認の実証的研究」『電波協会報』286号:
48-51.

(国際誌)

該当なし

7-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

②口頭講演 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

③ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(招待講演)

- ・小川晃子, 2012, 「ICT (情報通信技術) を活用したみまもりの効果と課題」ITヘルス
ケア学会第6回学術集会特別講演.

(口頭発表)

- ・小川晃子, 2012, 「仮設住宅におけるICTを活用した孤立防止とコミュニティづくり」
第13回日本福祉介護情報学会大会報告.
- ・小川晃子, 2013, 「仮設住宅におけるICTを活用した見守りとコミュニティづくりの効
果」日本遠隔医療学会SpringConference2013.

(ポスター発表)

該当なし

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

①新聞報道・投稿

- ・ 24.11.13 「震災時の福祉介護を検証」 岩手日報28面
- ・ 24.11.14 「福祉関係者防災に一丸」 岩手日報4面
- ・ 24.11.23 「医療・福祉連携訴え一県立大、被災地で講座」 岩手日報24面
- ・ 25.01.12 「被災地コミュニティの今―釜石・鶴住居 見守りの取り組み 上」 岩手日報23面
- ・ 25.01.13 「被災地コミュニティの今―釜石・鶴住居 見守りの取り組み 下」 岩手日報23面

②受賞

該当なし

③その他

- ・ 小川晃子, 2013, 『今日もげんき!』—おげんき発信は『生きている証』 「ほっとコラム」, 科学技術振興機構社会技術研究開発センター, (130308, <http://www.ristex.jp/korei/04from/column.html>) .
- ・ 東京書籍の平成27年小学校5年生社会科の「情報化した社会の様子と国民生活の関わり」の教材として、「おげんき発信」及び「生活支援型コミュニティづくり」が取り上げられることとなり、10月4日に取材を受けた。

7-6. 特許出願

- ①国内出願 (0 件)